

はじめに

みなさん、課題学習や自由研究は得意ですか？ 夏休みや冬休み、学校の宿題で課題学習や自由研究の題材選びや具体的なやり方がわからず、困ったことはありませんか？

いま私たちが暮らしている社会は、コンピュータやインターネットの発達で、以前とは比べものにならないスピードでどんどん変化しています。また、食糧不足や環境問題など、グローバル（地球規模）で考えなければならぬ問題もたくさん出てきています。日本に目を向けると、出生率の低下を追って人口は減少に転じました。そうしたなかで、65歳以上の高齢者が占める割合が増えて、世界でも類をみないスピードで少子高齢化が進んでいます。日本全体の傾向は、当然、みなさんが住んでいる県や市、町でもみられることです。

探究的な課題学習や自由研究とは、

身の回りでいま何が起きているのか？

それが私たちの日常の暮らしや判断にどのような影響を及ぼしてくるのか？

より良い暮らしや社会を実現するために、いま何をすべきなのか？

について、客観的な統計資料やデータを提示しながら、効果的に表現し伝える学習活動です。もちろん、テーマは、社会的なことに限らず、スポーツや自然環境、将来の進路や趣味にいたる幅広い対象から自由に選ぶことができます。ただし、何を対象としても、課題学習や自由研究の成果が説得力をもつためには、ものごとを探究し結論や結果をまとめるプロセスが論理的であること、また、主張や判断が客観的な事実にもとづいていることが必要です。この『科学的なアプローチ』を実現するのが、統計的な探究プロセスであり、そこで獲得し、活用される『客観的な事実』が統計資料そのものです。

本書は、中学生以上の生徒のみなさんを対象にした、課題学習や自由研究の取り組み方を学ぶ学習ワークブックです。一般財団法人日本統計協会に委託し、統計教育のための教材開発研究会を設置して作成した学習教材です。本書を通して、身近な統計資料の活用のしかたや統計的な探究プロセスの考え方をやさしい事例で学ぶことができます。

データや統計資料を活用し課題を解決する能力は、中学校・高等学校での課題学習や自由研究だけでなく、大学での研究や社会に出て仕事をしていく上でも、とくに必要とされている技能で、21世紀型スキルとして、世界中で推奨され、熱心に教育されています。提案に説得力をもたせたり、プレゼンテーションを成功させるために、なくてはならないのが『統計』なのです。

本書を通して、みなさんの統計活用能力が向上し、苦手な課題学習や自由研究が楽しくスムーズにできるようになること、また統計調査に協力することの大切さの理解を深めていただくことを期待しています。

平成28年5月

総務省政策統括官（統計基準担当）

田 家 修